

平成29年度

学校法人高水学園
事業報告書

1 法人の概要

(1) 建学の精神

本学の建学の精神は、「楽学」である。これは論語の第一章「学びてときに之を習う、亦説ばしからずや。朋有り遠方より来る、亦樂しからずや。」からの引用である。

その謂れは、「学んだことを常に繰り返してゆくと、やがて自分のものとなり、自由に働きを表すようになる。」である。絶えざる人格の練成と教育の実践を重視している。

(2) 法人の概要

明治	31年	4月	山口県高水村新町に就業年限2ヶ年の高水村塾を創設
	32年	11月	私立学校令発布により塾則を制定
大正	9年	7月	修業年限5ヶ年に延長し高水中学と改称
	12年	3月	財団法人山口県高水中学校に移行
昭和	23年	4月	学制改革により山口県高水高等学校に移行、併設中学校は付属中学校と改称
	26年	3月	学校法人山口県高水高等学校設立
	27年	4月	全日制商業科設置
	29年	4月	岩国市に学校移転
	34年	4月	校名を高水高等学校・同付属中学校と改称
	35年	4月	高水高等学校家政科を設置
	46年	4月	法人名を高水学園と改称、岩国短期大学(幼児教育科、英語科)を設立
	51年	3月	高水高等学校家政科を廃止
	56年	10月	岩国短期大学創立10周年記念式典挙行
平成	10年	10月	学園創立100周年記念式典挙行
	13年	4月	岩国短期大学にビジネス実務科設置
	14年	3月	岩国短期大学英語科を廃止
	18年	4月	ビジネス実務科をキャリアデザイン学科に名称変更
	20年	4月	高水高等学校付属中学校と高水高等学校の一貫教育の施行(学則に規定化する)
	25年	3月	岩国短期大学キャリアデザイン学科廃止

(3) 設置する学校学科の名称・設立月・所在地

学 校 名	設立年月	所 在 地
岩国短期大学	昭和46年4月	山口県岩国市尾津町二丁目24番18号
高水高等学校	昭和26年3月	山口県岩国市尾津町二丁目24番18号
高水高等学校付属中学校	昭和26年3月	山口県岩国市尾津町二丁目24番18号

平成29年5月1日現在

(4) 設置する学校学科の入学定員と学生生徒数(単位：人)

学校名	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
岩国短期大学	幼児教育科	80	69	160	146
高水高等学校	普通科	280	197	940	640
高水高等学校付属中学校		70	20	250	86

平成29年5月1日現在

【教職員の概要 専任(非常勤)】(単位：人)

学校名	教員数(非常勤)	職員数(非常勤)	合計(非常勤)
岩国短期大学	12 (26)	7 (8)	19 (34)
高水高等学校	46 (11)	6 (6)	52 (17)
高水高等学校付属中学校	11 (1)	1 (0)	12 (1)

平成29年5月1日現在

(5) 役員の概要

(平成29年5月1日現在)

定員数 理事9名、監事2名

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	経 歴	就 任	
				就任年月日 (重任年月日)	届出年月日 (登記年月日)
理 事 長	宮 川 明	常勤	高水学園理事長	平成12年12月7日 (H28.10.13)	平成24年10月31日 (H24.10.22)
理 事	寺 嶋 隆	常勤	岩国短期大学学長	平成12年12月7日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
理 事	前 田 茂 雄	常勤	高水高等学校校長	平成23年4月1日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
理 事	森 橋 律 夫	非常勤	岩国駅構内タクシー社長	平成22年4月1日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
理 事	富 沢 佐 一	非常勤	中国新聞社客員編集委員	平成24年10月13日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
理 事	松 原 一 誠	非常勤	錦ドリーム開発取締役	平成17年4月1日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
理 事	加 藤 善 美	非常勤	前高水高等学校長	平成25年4月1日 (H28.10.13)	平成25年4月9日
理 事	館 澄 子	非常勤	高水学園同窓会副会長	平成27年4月1日 (H28.10.13)	平成27年4月1日
理 事	宮 川 洋	常勤	高水高等学校事務局長	平成16年10月13日 (H28.10.13)	平成24年10月31日 (H24.10.22)

● 監事の就任年月日

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	就 任	
			就任年月日 (重任年月日)	届出年月日
監 事	池 元 幸 信	非常勤	平成20年10月13日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
監 事	村 元 真 澄	非常勤	平成27年12月10日 (H28.10.13)	平成27年12月14日

(平成29年5月1日現在)

(定員数20名)

(6)評議員の概要

氏名	主な現職等	就任	
		就任年月日	重任年月日
寺嶋隆	理事	平成11年4月1日	平成28年10月13日
前田茂雄	理事	平成23年4月1日	平成28年10月13日
宮川洋	理事	平成17年4月1日	平成28年10月13日
森橋律夫	理事	平成11年9月21日	平成28年10月13日
松原一誠	理事	平成12年10月13日	平成28年10月13日
富沢佐一	理事	平成16年10月13日	平成28年10月13日
館澄子	理事	平成12年10月13日	平成28年10月13日
加藤善美	理事	平成29年3月2日	
宮本剛	高水高等学校附属中学校長	平成27年4月1日	平成28年10月13日
西村宏	岩国市教育委員長	平成22年4月1日	平成28年10月13日
渡辺耕而	元高水高等学校附属中学校長	平成20年3月1日	平成28年10月13日
伊達明彦	岩国通運代表取締役	平成1年3月28日	平成28年10月13日
吉岡賢一	高水学園同窓会副会長	平成15年7月16日	平成28年10月13日
長尾泰子	元高水学園囑託	平成12年10月13日	平成28年10月13日
玉田和子	錦病院理事	平成16年10月13日	平成28年10月13日
岡本勝	とみや取締役社長	平成17年4月1日	平成28年10月13日
松本泰行	元高水高等学校教頭	平成28年10月13日	
稗本哲也	前高水高等学校事務長	平成15年1月22日	平成28年10月13日
那須理恵	高水高等学校事務長	平成27年12月10日	平成28年10月13日
中村洋子	岩国短期大学事務長	平成28年10月13日	

Ⅱ. 事業の概要

■【法人全体】

学園創立 120 周年記念に関する事業実施である「中国新聞掲載卒業生コラム」を 9 月～3 月まで計 14 回掲載し、県内に本学園の地域貢献を周知できた。

また、学園全体で、教育振興寄付金の募集（2 年次）を新たに進めたことで、外部資金を獲得することができた。

次年度 9 月までに、高水学園 120 周年誌を刊行予定である。

■【短期大学】

I. 事業報告

1. 教職員の資質の向上とモラルの高揚

教職員の資質向上のために、FD 研修会（年 3 回）と SD 研修会（毎月 2 回）を実施した。

4 月の学期始めには非常勤講師を対象に合同研修会を開催し、本学の教学の運営方針を学内で共有した。また、全教職員参加の合同研修会として、建学の精神・教育理念と教育目的、SWOT 分析会、財務状況説明会、ハラスメント講習会を実施した。

2. 入学定員確保と就職率達成

◎ 指定校推薦入試の強化

指定校より、成績優秀で入学後もリーダー的活躍が期待される生徒を本学の学生として迎え入れるため、平成 29 年度入試から設けている指定校推薦入試成績優秀者奨学金について指定校推薦入試受験生のうち高校における評定平均値が 4.5 以上の場合、入学金を全額免除することに加え、平成 30 年度入試からは評定平均値 4.0 以上であれば入学金を半額免除する制度へと拡充した。

◎ 高大連携及び中大連携の拡充を図ることで、受験生への広報活動に繋げる。

高大連携協定校については、平成 27 年度においては 2 校と締結しているが、平成 28 度に更に 2 校との協定書の取り交わしを実施した。29 年度においては協定の趣旨に基づき、出前授業の充実や校内行事への学生のボランティア活動への参加を積極的に推し進めてきた。また、中学校との連携教育の一層の推進を図るため、岩国市内の中学校との連携授業や校長との意見交換などを行い、今後の効果的な中大連携のあり方について意見交換を行ったりして中学校段階から幼児教育・保育の分野をめざす生徒が本学への進学を目標とできる環境づくりを推進した。

◎ オープンキャンパスの内容強化

受験を検討する高校生や社会人が本学の魅力を感じ取れるようオープンキャンパスの内容充実を図るとともに、参加者の受け入れ態勢を充実する。そのため、毎回参加者のアンケート結果の内容やキャンパスメイトとして参加する学生の改善意見を吟味しながら参加者の満足度を向上させる取り組みを継続した。また、参加者の満足度を向上させるため、最後に学長と教員のギター伴奏による全員合唱を取り入れたり、面接アドバイスを教員から直接受けられるブースを追加したりした。この結果、オープンキャンパス参加者の受験率の向上が見られた。

◎ 本学独自の奨学金制度の広報

高校生が経済的負担を比較検討して進学先を決定する実情を踏まえ、他大学との競争力を保持強化し、意欲ある優秀な学生を積極的に獲得したり経済的理由による中途退学を防止したりするための各種奨学制度の見直しと改善を図り、教員による高校訪問で各高校の進路担当者に説明を行ったり、業者主催のブース形式による進学相談会等においても高校

生に直接説明を行ったり資料提供を行ったりした。

3. 中期的財政計画の実施

本学は、今年度も厳しい財政状況の中、定員を減らすことで運営規模を縮小したが、抜本的な対策にはなっていない。年度当初に中期財政健全化計画を策定したが、短期大学は幼児教育科単科であるため、教育課程に沿った教員の適切な配置と、職員の専門的・技術的業務力があることで、学生への教育がなされている。よって財政計画から人事政策は実践できなかったが、全般的な経費の抑制は図った。

4. 退学者等を減らす学生指導及び教育相談の充実

目標として(1)ミスマッチの解消、(2)入学後の保育者への目的意識の涵養と動機づけ、(3)学生へのきめ細かい指導とクラス運営の工夫、(4)学生の質の向上を掲げ、科会、学生部、クラス顧問等が中心となって組織的な中途退学予防の取り組みを行った。入学当初の欠席状況調査や、それに基づいたクラス担任による学生への個人面談（オフィスアワーの時間を利用して実施）、年3回の保護者懇談会、月一度の科会での頻繁な学生情報交換、行事や実習前での丁寧なマナー指導などによる学習・就職への意欲づけなどにより、平成29年度の中途退学率は除籍者を含め4.42%にとどめることができた。

5. 学生募集と広報活動の充実強化

全教員による高校訪問は年間を通じて4期に分け、本学の取り組み・入試制度・奨学金制度・オープンキャンパスの案内等の説明を行った。1回の訪問校は約100校強であり、訪問の時期により説明内容を変更している。

また、平成29年4月から岩国～那覇間の空路が通年運行されることとなったことを受け、沖縄県への学生募集に本格的に乗り出すこととし、沖縄県出身学生対象の奨学金制度を整備するとともに岩国市観光振興課や岩国商工会議所との連携のもと、那覇市及び近隣の高校10校を学長、事務長、入試広報センター長3名で訪問し、校長及び進路指導担当者と面会して本学への進学について協力を依頼した。さらには、業者主催の高校内資料頒布会にも参加し、高校生が本学の教員と直接入試対策等を聞くことができる場を設定した。

6. 就職活動の支援強化

キャリア支援センター等が中心となつてのキャリア支援の組織的な取り組みを行っている。

◎ 就職100%に向けての取り組みの強化

1年次後期に就職希望調査を実施し、2年次5月には全員の個別面談を実施した。就職希望調査及び相談を行い、学生の希望確認とつながりを大切に実施した。また、正課内でのキャリア教育を実施し、就職内定までのアドバイス、内定後のアドバイスまできめ細やかに行き不安を取り除いている。1年生の夏より、就職対策試験の講座を専任の教員で実施し、更に公務員試験の対策講座（東京アカデミーより外部講師を派遣）を実施した。

1年生	8月 11～1月	基礎教養 公務員試験対策講座（東京アカデミーより講師派遣）
2年生	4～7月 5～2月	専門 面接指導（キャリア支援センター員を中心に実施）

◎ 「ようこそ先輩！保育実践力養成講座」の充実

キャリア開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおいて施設、保育所、幼稚園各分野で活躍している卒業生を講師として招き、就職活動の取り組みや新任から現在までの体験を通しての講話、保育実技等のワークショップを体験することで、保育実践力の向上に努めた。

◎ フォローアップセミナーの強化

6月に実施し多くの卒業生が参加した。本学の離職者に対する調査によると、自分が想定していた仕事内容と実際の仕事とのギャップが大きいことや未熟さが原因である。卒業後早期に、お互いの経験や思いを出し合い、問題点・課題・解決策を考え、ギャップを埋め、自分の未熟さに気づき自己研鑽に努めることが重要である。卒業生のネットワークの充実を図り、孤独感を緩和し明日への活力を感じることが出来るセミナーの実施は、早期離職の軽減に有効である。

7. 地域貢献の推進

地域交流センター、岩国子育て支援ネットワーク（lwatan 子育て愛ねっとアカデミー）等が中心となつての地域連携の組織的な取り組みを行っている。

◎ 生涯学習公開講座の実施

地域における高等教育機関の知的貢献という目的からオープンカレッジを年間前期と後期に実施している。特に高度情報社会に向けて一般市民の情報機器に対する啓発と理解、及び機械操作の習熟を念頭に継続的な実施を行っている。また、昨年度から、現場で働く保育者が岩国基地関係のアメリカ人子弟を園児として迎えて保育している幼稚園や保育園、認定こども園の要請に応え保育者のための英語講座を新設し、本年度も継続をする。

◎ 親学講演会の充実

年一度の「親守詩大会」を岩国親学推進協議会の協力を得て開催している。将来、保育者になる学生に対して、子供が親に対しての心情を吐露した句に親が応える親守詩の発表を聞かせて親心を実感する機会を設けた。その後に行われた講演会では、山口県東部里親会代表の佐伯孝子講師による「子どもに愛が伝わっていますか」の講演を通して親子の愛情形成について学んだ。

◎ 学生ボランティアの奨励

学生ボランティアを強く推奨していく。入学後学生にボランティア活動カードを配付し、ボランティア活動に参加した行事・項目を記録し、活動先の担当の方や担当した教職員からの確認印を年2回定期的に回収・集計している。2年間で46時間以上ボランティア活動に参加した学生の中から、宮川澳男賞と地域貢献奨励賞を、学位記授与式で表彰した。

本年度より、1年生には年2回のボランティア活動を義務づけている。

◎ 岩国子育て支援ネットワーク（lwatan 子育て愛ねっとアカデミー）の活動

本学の幼児教育科の専門性を生かし地域の子育て支援事業を展開していくために、平成23年度に岩国子育て支援ネットワーク（lwatan 子育て愛ねっとアカデミー）を設立し、7年が経過した。その間、保育者対象研修会（年2回）、「lwatan 親子広場」（年6回）、「lwatan 親子フェスタ」（年1回）を継続的に実施してきている。昨年度、第7回「lwatan 親子フェスタ」では、岩国幼稚園協会、岩国市保育協会、岩国市と和木町母子保健推進協議会等に加えて、岩国商工会議所の連携によって盛大に開催することができた。このネットワークをさらに継承して組織的に子育て支援事業を今後も行っていく。また、資金獲得のために、山口県からの補助を受ける申請を行った。

II. 事業内容

1. 入学式

平成 29 年 4 月 2 日（日） 69 名入学

2. 新入生歓迎行事

平成 29 年 4 月 14 日（金）～4 月 16 日（日）十種ヶ峰青少年自然の家

3. 学位記授与式

平成 30 年 3 月 19 日（月） ※宮川澳男賞（2 名表彰）

4. オープンキャンパス「本学」

3 月 20 日（月）、6 月 17 日（土）、7 月 9 日（日）、8 月 5 日（土）、8 月 6 日（日）
9 月 23 日（木）、11 月 18 日（土） 計 7 回実施

5. 進学説明会

業者主催によるブース形式の入試相談会に約 60 回参加

6. 高大連携「高大連携高校と出前授業(10 回)等による連携を推進」

- ◎ 高水高校 10 回
- ◎ 山口県立岩国総合高校 4 回
- ◎ 山口県立岩国商業高校 9 回
- ◎ 山口県立高森高等学校 4 回
- ◎ 山口県立熊毛北高校 3 回
- ◎ 山口県立熊毛南高校 1 回
- ◎ 山口県立新南陽高校 4 回
- ◎ 山口県立岩国工業高校 1 回
- ◎ 広島県立大竹高校 4 回
- ◎ 広島県立熊野高校 1 回
- ◎ 広島県立安芸高校 1 回
- ◎ 進徳女子高等学校 1 回

7. 中大連携「出前授業および大学見学および模擬授業体験等」

- ◎ 岩国市立麻里布中学校 1 回
- ◎ 岩国市立岩国中学校 1 回
- ◎ 高森みどり中学校 2 回
- ◎ 廿日市市立野坂中学校 大学訪問、模擬授業
- ◎ 大竹市立小方中学校 大学見学、図書館での読み聞かせ

8. 入学試験

AO 入試（4 回）、指定校推薦入試（2 回）、推薦入試（3 回）、試験入試（3 回）
社会人入試（6 回）、長期履修生入試（2 回）

9 入学前教育（入学前プログラム実施）

オリエンテーション、大学の授業の受け方（3 科目）、保育者になるため（1 科目）
基礎技術（3 科目）、人間関係づくり（3 科目）
第 7 回 lwatan 親子フェスタへの参加
平成 29 年 12 月～平成 30 年 3 月までの間で

10. 教員研修会「FD」（当該活動 3 回）、職員研修会「SD」、教職員合同研修会

11. 教育懇談会・保護者懇談会（年度内 3 回実施）

12. 教育相談の充実

オフィスアワーは時間割に組み込み、前後期とも金曜日の 5 限目を設定、非常勤講師については授業時間の前後 10 分間とし、シラバスに明記。

13. 事業の運営

教授会（定例・臨時）、科会、部会、各種委員会

14. 地域貢献推進事業

生涯学習公開講座 平成29年度前期2講座、後期2講座

親守詩大会・親学講演会 11月25日（土）に実施

岩国子育て支援ネットワーク（Iwatan子育て愛ねっとアカデミー）事業

保育者対象研修会

第13回保育者対象研修会 7月29日（土）

第14回保育者対象研修会 1月27日（土）

第7回Iwatan親子フェスタ 3月4日（日）

Iwatan親子広場

第1回 5月13日（土） 第2回 6月17日（土）

第3回 7月9日（土） 第4回 9月23日（土）

第5回 10月14日（土） 第6回 11月11日（土）

15. その他の事業

岩国市と包括連携協定の推進

平成29年度 第1回包括連携推進会議 9月27日（水）

岩国商工会議所との連携協定締結

連携協定締結式 9月26日（火）

第1回推進委員会 11月28日（火）

第2回推進委員会 1月10日（水）

福田岩国市長（本学客員教授）による特別講義 5月26日（金）

就職ナビ in いわたんの開催 7月1日（土）

お店屋さんごっこ 7月14日（金）

幼稚園教諭免許更新講習 8月19日（土）、8月20日（日）

私立大学等経営強化集中支援事業申請 タイプA採択される

1号館耐震工事完了

3号館冷暖房設備改修

消防等防災訓練 10月6日（金）

■【高等学校・同付属中学校】

I 事業報告

本校での学校活動、授業、特別活動（学級活動・生徒会活動・学校行事）や部活動等を通して、豊かな人間性を育み、自己の夢や志を実現するための基礎・基本学力を養成し、6年後あるいは、3年後には一人ひとりの進路を保障する、という3つの保障を重点目標に掲げ、全教職員が教育活動を実践した。

まず、「学校運営の質」を高めるために、自己評価書の作成や外部の学校関係者評価委員による制度の活用、「授業の質」を高めるために全教職員による研修大会の導入や生徒による授業評価を取り入れた授業改善に取り組んだ。さらに、教職員一人ひとりの資質能力と意欲の向上を図るために教員の研修の充実や教職員評価の取組など「教職員の質」の向上をめざしている。

特に、今年度、教員の資質向上を図る目的で、11月に全教員参加して研修授業と研究協議を実施した。そして、全教員がICTを活用して「主体的・対話的で深い学び」を視点に入れての授業を展開する、という共通認識ができたことは意義深い。また、生徒指導、進路指導、特別支援教育についてより研鑽を深めるために外部講師を招いて4回の教員研修を開催した。

今年度の具体的な取り組みについては、次の事業内容に記す。

II 事業内容

1. 本校での3つの保障（学力、人間性、進路）に対して以下の取り組みを行った。

（1）学力の保障

①教員研修 年4回（1学期2回、2学期2回）

進路、生徒指導、特別支援教育関係の外部講師を招いて実施。

②教科会議 原則、毎週1回、英・数・国・社・理・保健・芸術・家庭科で実施。

③研修大会 11月29日、全教職員参加して、テーマ『ICTを活用しての「主体的・対話的で深い学び」』の研究授業と研究協議を行い研鑽を積んだ。

（2）人間性の保障 特別活動（生徒会活動・学校行事）や部活動を通じた取り組みを実施。

①運動会 9月9日 来賓、保護者約500名参観

②楽学祭 9月22日～23日 テーマ「BOND ～強力ボンドは離れない～」保護者自由参観

③修学旅行 ○普通科2年生修学旅行 9月27日～9月30日、東京方面 生徒170名、引率教員8名で実施。

○六年制普通科1年生 11月13日～11月18日、オーストラリアへ生徒31名、引率教員3名で実施。

④挨拶・無遅刻無欠席運動週間 楽学石碑前、南岩国駅前各学期3回実施

○6月12日～17日 ○11月13日～18日 ○2月13日～17日

⑤普通科2年生インターンシップ 11月15日 普通科2年生172名、企業等65社依頼

⑥部活動 実績：インターハイ等全国大会出場クラブ

○団体：女子ハンド、女子空手道

○個人：水泳、柔道個人、放送

*女子ハンドボール部、創部以来の初準優勝

⑦その他 ◇科学の甲子園大会 中・高で県代表として初の全国大会出場

◇全日本高校模擬国連大会 2チーム出場 11月11日・12日 東京国連大学

（3）進路の保障

①付属中 ○楽学テスト3回 ○学力推移調査2回 実施。

②進路指導 ○外部模試の活用 中3～高3 進研、全統、駿台模試を実施

○模試検討会3回

③進路研修会 ○高校保護者対象：各学年2回 ○生徒対象：各学年2回実施。

④キャリア教育講演会

○11月8日13:10～14:50 体育館 「若い方が巻き込まれやすい消費者トラブル」

講師 山口県消費者センター井川郁氏、弁護士杉村憲昭氏

対象 中・高生徒、教職員

⑤就職：就職模試（2回）、就職ガイダンス（夏季休業中）を実施

*今年度の進路（卒業生221名）について

進学者162名（4年制大学86名、短期大学18名、専門学校58名）、

就職者52名（公務員8名、民間44名）、浪人生5名、家居（未定者）2名

2. 学校関係者評価委員会：外部からの視点で指導・助言を得た。

○学校関係者評価委員：PTA：森脇美奈子（新任）、企業：寺内浩之（再任）、中村義行（再任）、教育界：岡崎天隆（再任）、地域：八木敦浩（再任）の5名。

○年3回（各学期開催）6月7日、11月14日、3月7日

*3月に自己評価書を理事会に提出し、次年度の改善策を検討した。

3. グローバル化・異文化理解に向けて
 ○オーストラリア、サザンクロス校との短期交換研修プログラムを実施
 9月19日～25日 サザンクロス校から、生徒12名、教員3名来校
 3月10日～20日 生徒13名、教員2名、サザンクロス校へ派遣

4. 広報活動について 以下の入試に向けて、中高で広報活動を展開した。

- ◇ 付属中学校 専願入試12月3日（今年度初めて実施）
 一般入試1月14日
- ◇ 高等学校 六年制普通科、一般入試1月14日
 普通科、一般入試1月26日

【高校】

- (1) 中学校への進路説明会
 時期 6月6日～7月7日
 対象 岩国市内の中学校14校、大島中、東和中
- (2) 中学校訪問 4地区への訪問（市内、玖西、柳井以西、広島西地区）各2名ずつ派遣
 第1回 6月16日 今年度入試の報告、卒業生・在校生の状況を説明
 第2回 12月1・8日 次年度入試について、3年生の進路状況を説明
- (3) 塾対象説明会
 9月13日 岩国市内、柳井、広島市地区から17名参加
- (4) 中学校教員対象進路説明会
 10月5日 岩国市内、柳井・大島地区、西広島地区から22校参加
- (5) オープンスクールの開催（8月・11月）
 第1回8月5日：参加者465名（生徒367名、保護者86名、引率教員12名）
 内容 ①入試対策講義 ②クラブ見学 ③クラブ体験
 第2回11月3日：参加者281名（生徒213名、保護者65名、教員3名）
 内容 ①入試対策講義 ②模擬授業 ③クラブ体験
- (6) 文化部の発表会
 ○吹奏楽定期演奏会（4月30日、シンフォニア岩国）生徒、保護者、一般
 ○長唄三味線発表会（8月27日、シンフォニア岩国）生徒、保護者、一般

【付属中】

- (1) 小学校訪問（5月・9月）
 ○下松市～廿日市方面、約100校訪問
- (2) 学習塾への講演会
 ○芸城学院柳井校 5月1日、保護者25名
 ○芸城学院西岩国校 6月18日、保護者30名
 ○芸城学院高森校 6月29日、保護者5名
 ○芸城学院玖珂校 7月10日、保護者10名
- (3) 塾対象説明会
 9月13日 岩国市内、柳井、広島市地区から17名参加
- (4) 付中入試説明会 2回
 ○10月1日、83名（39組参加）
 ○11月11日、12名（7組参加）
- (5) オープンスクール（楽学フェスタ）の開催
 第1回6月3日、128名の親子参加
 第2回7月15日、116名の親子参加

第3回8月26日、166名の親子参加

(6) 学習塾への訪問（校長、教員）

○5月楽学フェスタのPR活動として学習塾16校訪問、郵送80校

○学習塾責任者との情報交換を11月中旬に実施

○12月17日、各学年主任と各校責任者との懇話会を開催、計10名出席

○2月18日、各学年主任と各校責任者と懇話会を開催、計8名出席

○3月3日、学習塾への訪問と情報交換、計5校

(7) ジュニア英語スクール（ケイト・重岡教員による小学生への英会話教室）

○7月24日～28日、全6回、受講生11名

Ⅲ 施設・設備の整備について

1. 主な施設設備の取得又は処分計画及びその進捗状況

○岩国短期大学1号館耐震補修工事を実施した。

○岩国短期大学3号館空調機整備を実施した。

○岩国短期大学1号館及び高水高等学校第1校舎の外壁塗装工事を実施した。

○岩国短期大学及び中・高等学校の両図書館に図書教育システムを導入（パソコン本体とマルチプリンターバーコードハンドスキャナ）教育環境の充実を図った。

○高水高等学校第1校舎のICT化に伴う電源工事を実施した。

Ⅳ. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表の状況

有形固定資産は、短大のクラブハウスを除却した為、建物が735万円減少。

特定資産は、土地等購入引当特定資産を取崩した為、3,000万円減少。

② 収支計算書の状況

私立大学等経営強化集中支援事業に採択され、1,205万円の補助金増収。施設整備費(1号館耐震補強等)補助金として1,316万円の補助金受領。

(2) 経年比較

① 貸借対照表

(単位：千円)

	27年度	28年度	29年度
固定資産	4,550,029	4,429,184	4,344,023
流動資産	306,910	465,384	462,418
資産の部合計	4,856,939	4,894,568	4,806,441
固定負債	187,614	181,918	181,598
流動負債	88,298	117,263	133,513
負債の部合計	275,912	299,181	315,111
基本金	4,637,294	4,607,252	4,644,541
繰越収支差額	△ 56,267	△ 11,866	△ 153,211
純資産の部合計	4,581,027	4,595,387	4,491,330
負債及び純資産の部合計	4,856,939	4,894,568	4,806,441

② 収支計算書

ア) 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	27年度	28年度	29年度
学生生徒等納付金収入	455,719	453,900	422,733
手数料収入	25,649	25,178	23,444
寄付金収入	12,093	29,393	25,354
補助金収入	323,470	387,890	322,811
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	12,539	23,639	28,356
受取利息・配当金収入	5,313	4,346	3,280
雑収入	28,017	62,063	71,181
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	47,885	43,750	49,635
その他の収入	181,717	118,319	101,851
資金収入調整勘定	△ 81,309	△ 116,890	△ 137,017
前年度繰越支払資金	159,607	272,016	394,147
収入の部合計	1,170,700	1,303,604	1,305,775

支出の部	27年度	28年度	29年度
人件費支出	653,359	690,547	699,397
教育研究経費支出	115,179	118,353	166,986
管理経費支出	27,653	26,193	28,477
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	5,013	70,972	49,838

設備関係支出	4,844	8,531	1,999
資産運用支出	415	28,501	1,940
その他の支出	124,987	32,766	65,662
資金支出調整勘定	△ 32,766	△ 66,406	△ 76,186
翌年度繰越支払資金	272,016	394,147	367,662
支出の部合計	1,170,700	1,303,604	1,305,775

イ) 活動区分資金収支計算書

(単位:千円)

科目	27年度	28年度	29年度
教育活動による資金収支			
教育活動資金収入計	857,186	922,489	858,430
教育活動資金支出計	796,191	835,093	894,860
差引	60,995	87,396	△ 36,430
調整勘定等	△ 3,539	△ 8,325	△ 8,597
教育活動資金収支差額	57,456	79,071	△ 45,027
施設整備等活動による資金収支			
施設整備等活動資金収入計	60,300	111,573	65,450
施設整備等活動資金支出計	9,857	79,503	51,837
差引	50,443	32,070	13,613
調整勘定等	△ 2,975	744	744
施設整備等活動資金収支差額	47,468	32,814	14,357
小計 (教育活動資金収支差額・設備整備等活動資金収支差額)	104,924	111,885	△ 30,670
その他の活動による資金収支			
その他の活動資金収入計	8,307	38,746	6,125
その他の活動資金支出計	822	28,500	1,940
差引	7,485	10,246	4,185
調整勘定等	0	0	0
その他の活動資金収支差額	7,485	10,246	4,185
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	112,409	122,131	△ 26,485
前年度繰越支払資金	159,607	272,016	394,147
翌年度繰越支払資金	272,016	394,147	367,662

ウ) 事業活動収支計算書

(単位:千円)

科目	27年度	28年度	29年度	
教育活動収支	事業活動収入の部			
	学生生徒等納付金	455,719	453,900	422,733
	手数料	25,649	25,178	23,444
	寄付金	11,843	26,523	23,344
	経常費等補助金	323,470	331,187	289,531
	付随事業収入	12,539	23,638	28,356
	雑収入	28,102	62,063	71,181
	教育活動収入計	857,322	922,489	858,589
	事業活動支出の部			
	人件費	650,865	684,851	699,076
	教育研究経費	207,891	211,287	261,143
	管理経費	31,242	29,748	31,970
	徴収不能額等	0	0	0
	教育活動支出計	889,998	925,886	992,189

	教育活動収支差額	△ 32,676	△ 3,397	△ 133,600
教育活動外収支	事業活動収入の部			
	受取利息・配当金	5,313	4,346	3,280
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	5,313	4,346	3,280
	事業活動支出の部			
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	5,313	4,346	3,280
	経常収支差額	△ 27,363	949	△ 130,320
特別収支	事業活動収入の部			
	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	1,120	59,573	35,561
	特別収入計	1,120	59,573	35,561
	事業活動支出の部			
	資産処分差額	7,762	46,162	9,298
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	7,762	46,162	9,298
	特別収支差額	△ 6,642	13,411	26,263
	基本金組入前当年度収支差額	△ 34,004	14,360	△ 104,056
基本金組入額合計	0	△ 5,371	△ 37,312	
当年度収支差額	△ 34,004	8,989	△ 141,368	
前年度繰越収支差額	△ 41,267	△ 56,267	△ 11,865	
基本金取崩額	19,004	35,413	23	
翌年度繰越収支差額	△ 56,267	△ 11,865	△ 153,210	
(参考)				
事業活動収入計	863,755	986,409	897,430	
事業活動支出計	897,760	972,048	1,001,487	

(4) その他

① 有価証券の状況

なし

② 借入金の状況

なし

③ 学校債の状況

なし

④ 寄付金の状況

教育振興寄付金募集により、一般寄付金として6,118,474円を獲得、受配者指定寄付金として6,340,000円獲得した。

⑤ 補助金の状況

外部資金の獲得の必要性から計画通り、岩国市より公開講座の補助金を220,000円、山口県より子育て応援ファンドの補助金を99,586円、県内就職推進支援事業の補助金を919,000円、剣道場・卓球場耐振診断補助金を1,313,000円獲得。

⑥ 収益事業の状況

なし

⑦ 関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

あり（100万円未満の賃料のため、取引の重要性を判断する際の取引基準に該当しない。）

イ) 出資会社

なし

⑧ 学校法人間取引

なし